女筵
寛書
了花道
國貞画
芳傳

文化十年

へ13
2793

女俊寛雪の花道 全部五冊

江戸馬喰町二丁目 森屋治兵衛版

へ12
2993

自叙

手の日比姫小松ぢ。女繪双紙のたゞ〜ふひゝ。盛衰記の故事ものがたりの藏人。待宵の事。蹈ぬまぢく。烏帽子折の六太郎。姫娘扇の古骨。ぬ〜折うへてあらぬしく。文句つゞれの合印。三角な雲の花道。頓智早咲早梅の産ぢ〜たる趣向ゆて。まぐ降〜〜な物語。深い業じ〜なケルぢ。こゝろハ一番。きゝてたゞ

文化七年庚午九月稿成
八年辛未新繪草紙

山東京傳述

栗津前庄義久
息女
五月雨姫
狐飛點
破秋山碧
蓑立所時
晩瀬色
俊寛
徳壽丸
一ろの
檜部
雪の門
玄来
栗津前
庄一子
嵐丸
朱目の
判官
盛久
姫松の
惟子雪や
伊達
蒼美
女房
俊寛

知其白守
甚黒
若蚕組の男
かけの堂
物川庄司
左エ門僕
陀天平

の九郎
せの太郎
ものの
ふんど
の男だて
郎

有王丸
丸之
三千五拾銀成敗
八十二樹頭ゑ
京四
存の白ひ
岩雪
俊寛家臣有王女房
なめらのおひや
俊寛家臣亀王女房
おやま
烏鐘の
周九郎
実ハ
倶梨伽羅太郎
倶梨伽羅山の
荒猪
丸之
子也

恨哉
芳草池頭殘淡々牡丹花露夜濃々
待宵の
あけ四つ鐘の
あつまれの
多い物のうハ
君ゆひけん
島鐘のはし
いふ惡しかるべん
京五条坂の遊君
待宵太夫実ハ近江
粟津前庄家臣
竹中兵馬光清娘

丸寿徳
晉其年
雪きぶて礫まろや
戦たゞん園炭で
軍ぐん兵ぴやう
難波ぢう次郎
常とき連
亀王女房ちやつ

きんのつぎき

かるさとしも一人のとむらうそせきろて男ごそごまちりぐれ
天八手そさんぐにうちそれが男ごそごろいかるゑ
おりしせぬ々ゑんぐこと〜どこごもてこむそうかゆのごろ
ちろーやゃうんきとすーひんごうん〜

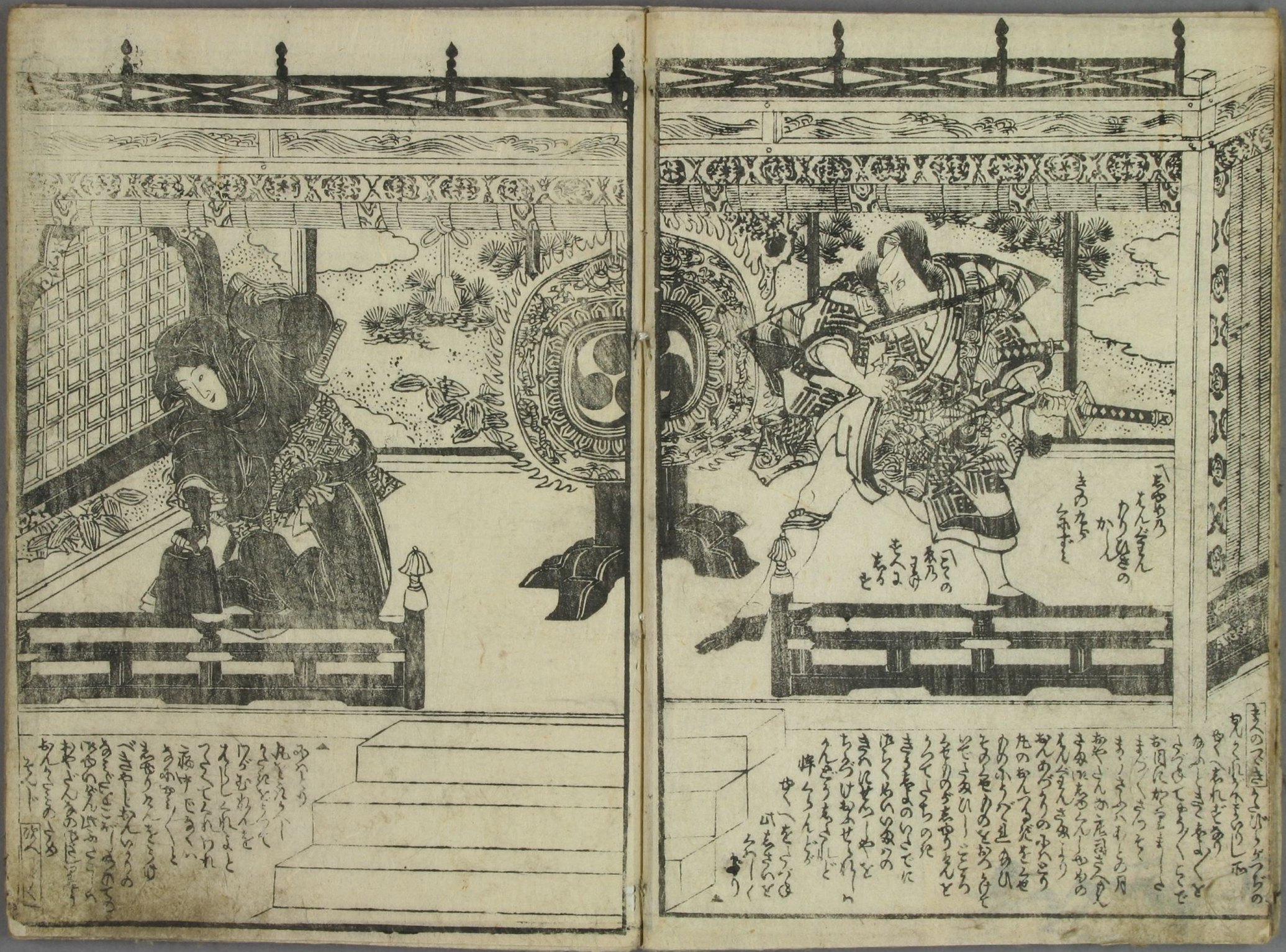
ゆさーけるきゃ
ん〜そんごうれ〜
すーきゃ〜ん
ゆゑまつゑひ
ゆりしてきろ
りゆとれ
とんどいと
まゆしれ
つまごま
こうゆしき

ちろぐ
出板仕

「ゆゑて
ゆいろろ仕
京傳作 好古
まんろ書
軍蕈集

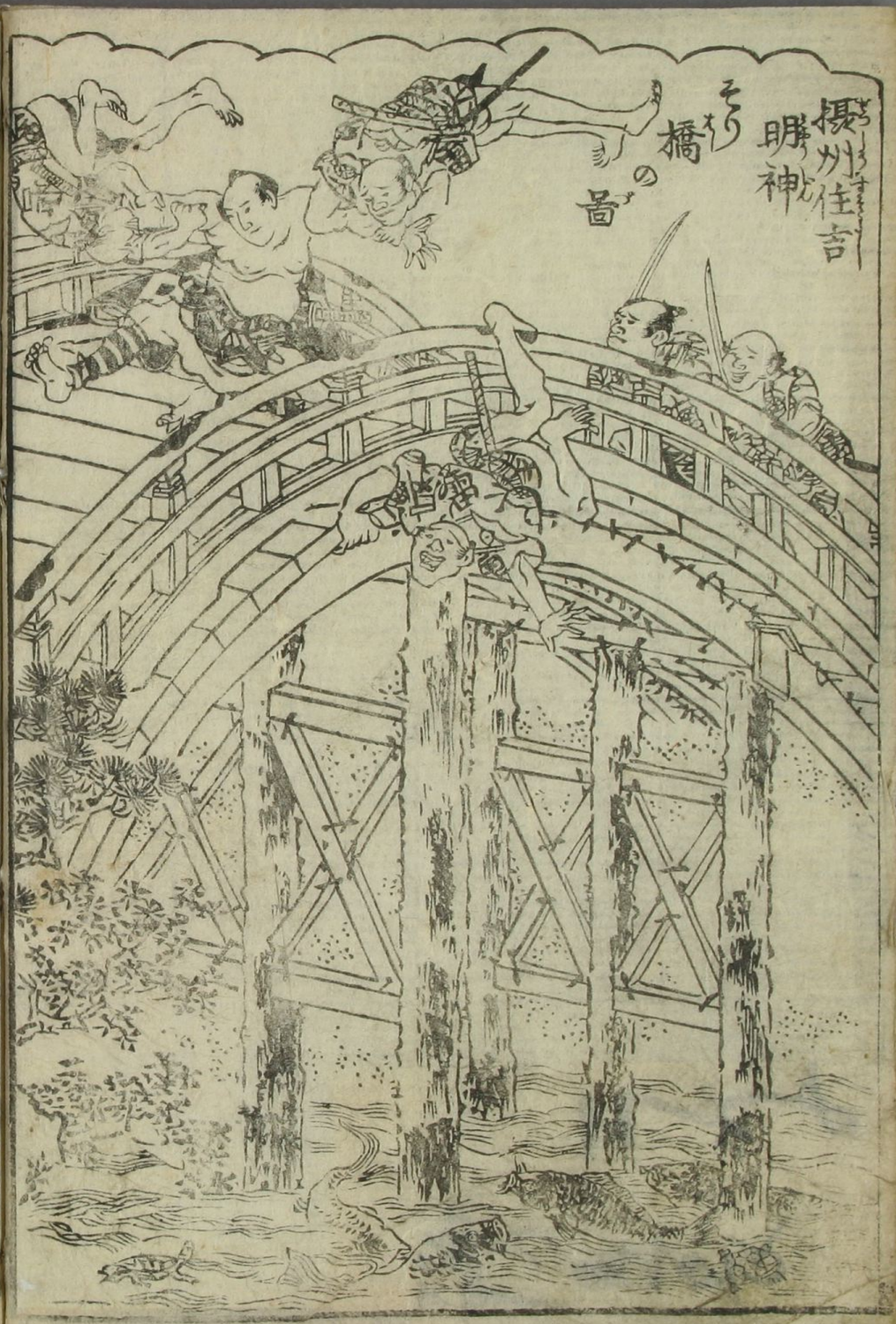
十六
七夕の頃の
こんもち

上へ



摂州住吉明神

橋の図



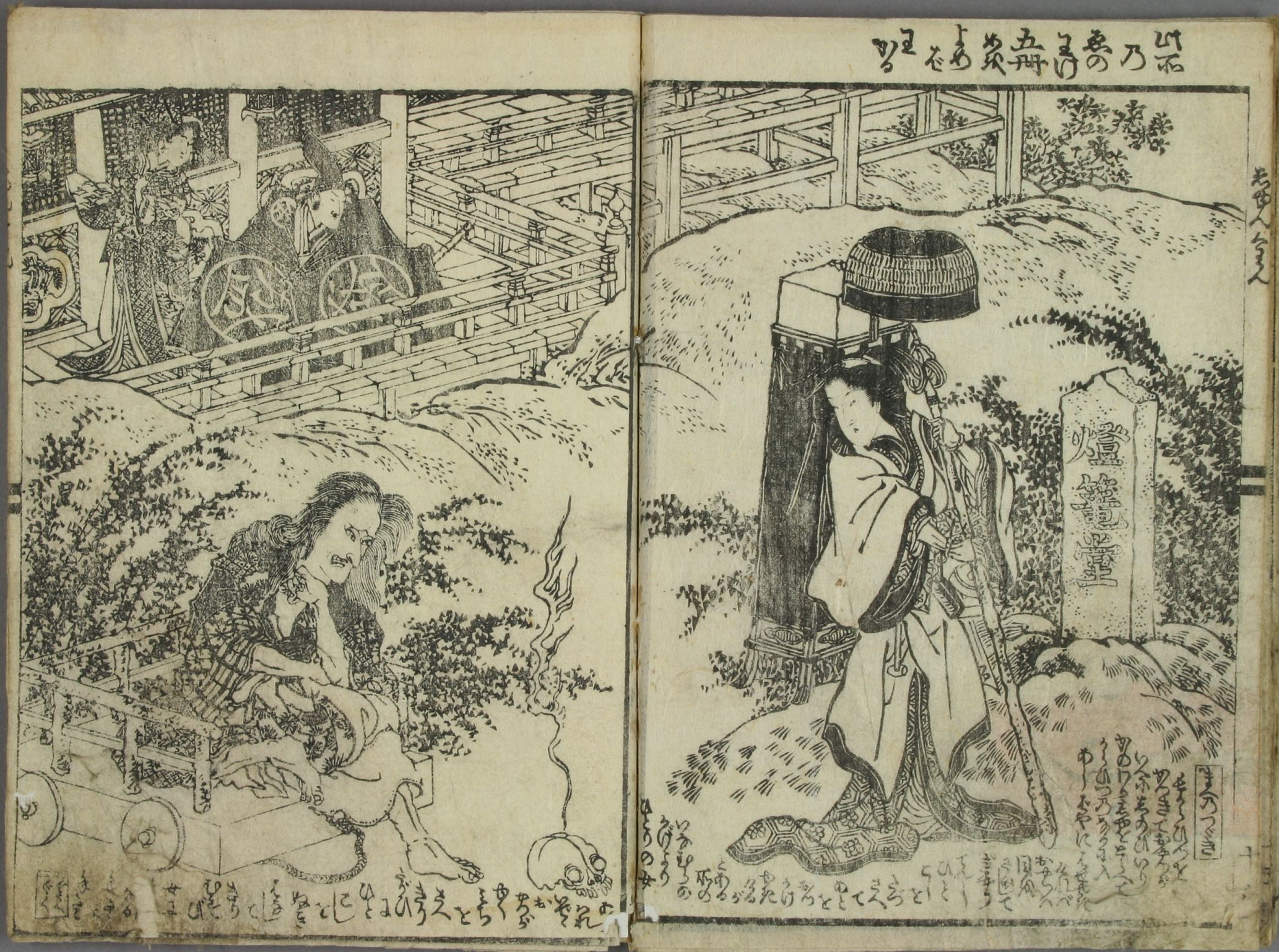
まくのできる少し

前編三冊終

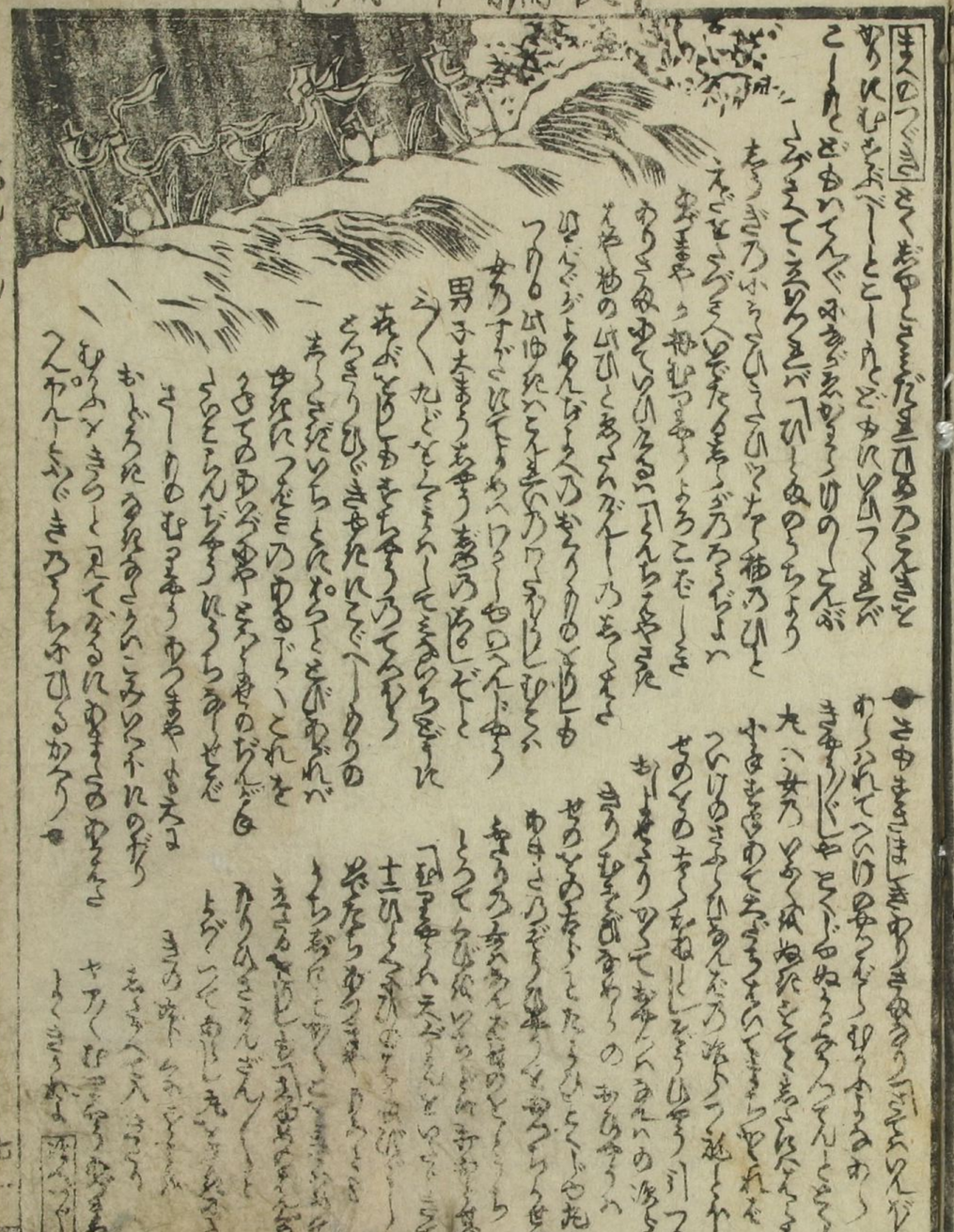
國貞畫 山東京傳作

筆耕 德飛

女俊寛後編上冊



春花信士俗名
秋月信士俗名
東



山東京傳作

歌川國貞画

江戸馬喰町二丁目森屋治兵衛板

筆耕橋本德瓶